

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 8 月 22 日現在

機関番号：17701

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26283009

研究課題名(和文)新出資料による琉球処分期琉球知識人の総合的研究ーそのアイデンティティに着目して

研究課題名(英文)General study on the Ryukyu intellect in Disposition of Ryukyu period by using newfound materials

研究代表者

高津 孝 (TAKATSU, Takashi)

鹿児島大学・法文教育学域法文学系・教授

研究者番号：70206770

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 5,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、新発見の琉球王国末期から琉球処分期の琉球知識人文書を整理研究することで、琉球王国崩壊期の琉球知識人の複雑で多様な文化的背景、思想、アイデンティティの問題を明らかにし、それを、東アジア世界における前近代と近代の狭間に生じた古典的知識人達のアイデンティティの問題の中に位置づけるものである。研究成果は、東方学会主催国際東洋学会議「新出の琉球漢文資料と琉球史の読み直し」(2016年5月、東京都)、「琉球漢詩文国際シンポジウム」(2017年1月、うるま市)において公表し、資料集として『新見琉球王国漢文文献集成』(上海・中西書局)20冊(2018年3月出版予定)を編集した。

研究成果の概要(英文)：The aim of this study is questioning the identity of Ryukyu intellect living between Modern era and Premodern era in East Asia by revealing fascinating details about complex and diverse cultural background, thought and identity problem in Disposition of Ryukyu period on newfound materials of Ryukyu intellect. We presented our research results at two conferences: 61st INTERNATIONAL CONFERENCE OF EASTERN STUDIES: Tokyo, May 20th, 2016; SYMPOSIUM IV: Newly Discovered Chinese Sources from the Ryukyus and Rereading Ryukyuan History, and Ryukyu Kanshibun International Symposium: Okinawa, January, 22th, 2017. We edited Shinken Ryukyu Okoku Kanbun Bunken Shusei, Shanghai, Zhongxi Shuju, 20 volumes (publishing schedule).

研究分野：中国文学

キーワード：琉球 漢籍 科学 蔵書 蔡大鼎 漢詩文 知識人 アイデンティティ

1. 研究開始当初の背景

(1) 失われた文化遺産：琉球王国の文化遺産は、明治時代の琉球処分以降、古典琉球文化を支えた士人階層の消滅とともに離散し、消滅する過程に突入し、さらに、第二次世界大戦の主戦場となったことで、沖縄本島に残された琉球王国時代の文化遺産のほとんどは失われることになった。

(2) 琉球関係漢籍目録の編纂：研究代表者は、平成4・5年度文部省科学研究費補助金総合研究(A)「琉球列島における宗教資料に関する総合調査」に研究協力者として参加し、報告書として『琉球列島宗教関係資料漢籍調査目録』(1994年、榕樹社)を公刊。平成8・9・10年度科学研究費補助金基盤研究(A)(1)「久米島における東アジア諸文化の媒介事象に関する総合研究」に研究分担者として参加、久米島文書漢籍の調査にあたる。平成11・12・13年度科学研究費補助金基盤研究(A)(1)「前近代久米島文化の復元 未公開の家文書群の学際的実地検証をふまえた解釈による一」に研究分担者として参加、久米島文書漢籍の調査にあたる。平成15・16年度科学研究費補助金特定領域研究(2)「東アジア出版文化の研究」に参加し、「近世琉球における漢籍の収集・流通・出版についての総合的研究」(研究代表者：鹿児島大学法文学部・高津孝、平成15年度、1,000千円、平成16年度、1,000千円)を研究課題として研究を行い、『増補琉球列島漢籍調査目録』を公刊。

(3) 『琉球王国漢文文献集成』の刊行：『増補琉球列島漢籍調査目録』に基づき、琉球大学附属図書館、沖縄県立図書館、沖縄県立博物館・美術館、那覇市歴史博物館、法政大学沖縄文化研究所他、日本、中国(復旦大学、上海図書館)、米国(ハワイ大学)の所蔵機関の協力の下に70点の文献データを収集、中国復旦大学出版社から『琉球王国漢文文献集成』として刊行した。

(4) 新発見の琉球資料：2012年、紺野達哉によって琉球王国末期の琉球漢詩人蔡大鼎の未発見詩集が早稲田大学図書館、慶應義塾図書館、関西大学図書館で発見、紹介された。これまで知られていた蔡大鼎の詩文はすべて中国訪問時のもので、琉球王国内で創作された詩文(『漏刻樓集』『伊計村遊草』『欽思堂詩文集』『續欽思堂集』)が発見されたことの意義は大きい。

(5) 新発見の琉球資料：2012年、榮野川敦(うるま市教育委員会)によって、上杉家記録編纂所の総裁であった伊佐早謙によって収集された琉球末期の琉球知識人資料が山形県内の米沢図書館、山形大学等で30数点発見され、沖縄県うるま市で展示会が開催された。蔡大鼎撰『御詩和韻集』、蔡大鼎の父・蔡德懋の編輯本および旧蔵本の『御製併和詩』『國學槐詩集』『經傳序集』、林世功旧蔵の『擬表』『香草齋詩註』などがある。

(6) これら新出資料は、すべて蔡大鼎、林

世功など、琉球王国内にあって中国との外交交渉を担った久米村の知識人に関連するものである。

(7) 本研究では、『琉球王国漢文文献集成』に含まれるものに、新出の琉球資料を加え、それらに基づき、琉球王国崩壊期における琉球知識人の、中国、日本という文化圏の狭間に在った、複雑で多様な、文化的背景、思想、アイデンティティの問題を明らかにする。

2. 研究の目的

本研究は、新しく東京都及び山形県で発見された琉球王国末期から琉球処分期における琉球知識人文書を整理研究することで、中国、日本という文化圏の狭間にあった琉球王国崩壊期の琉球知識人の複雑で多様な文化的背景、思想、アイデンティティの問題を明らかにし、それを、東アジア世界における前近代と近代の狭間に生じた古典的知識人達のアイデンティティの問題の中に位置づけるものである。

3. 研究の方法

本研究は、3年間の研究期間において、新しく東京都及び山形県で発見された琉球王国末期から琉球処分期における琉球知識人文書について、整理研究を行い、琉球王国崩壊期における琉球知識人の複雑かつ多様な、文化的背景、行動様式、アイデンティティの問題を明らかにする。さらに、東アジア世界における前近代と近代の狭間に生じた古典的知識人達のアイデンティティの問題を比較史的に考察する。研究成果は、琉球知識人たちの文集の翻訳の刊行、論文の発表、国際シンポジウムの開催を通じて、その成果を社会に還元する。

4. 研究成果

本研究において、新発見の琉球王国末期から琉球処分期の琉球知識人文書を整理研究することで、琉球王国崩壊期の琉球知識人の複雑で多様な文化的背景、思想、アイデンティティの問題を明らかにし、それらが、東アジア世界における前近代と近代の狭間に生じた古典的知識人達のアイデンティティの問題に位置付けられた。琉球漢詩文を琉球の社会史、女性史研究の素材とし大きな成果を上げた。琉球末期の代表的知識人蔡大鼎について詳細な研究を行い、多くの新たな知見が得られた。蔡大鼎『北上雜記』の欠落部分を新たに発見し、琉球処分期の琉球人の北京での活動が明確になった。琉球後期の科挙制度の実態を解明した。琉球官話を琉球社会と福建社会をつなぐ社会史資料として利用する研究で成果を上げた。残存する呈文を総合的に研究し、その実態を明らかにした。研究成果は、二つの国際学会：東方学会主催国際東洋学会議「新出の琉球漢文資料と琉球史の読み直し」(2016年5月、東京都)、「琉球漢詩文国際シンポジウム」(2017

年 1 月、沖縄県うるま市)において公表し、新たに資料集として『新見琉球王国漢文文献集成』(上海・中西書局)20冊(2018年3月出版予定)を編集した。

5. 主な発表論文等
(研究代表者は下線)
〔雑誌論文〕(計 15 件)

水上 雅晴, 琉球「科試」の実施状況について, 『沖縄文化研究』, 査読あり, 第 44 号, 法政大学沖縄文化研究所, 2017 年 03 月, 1-31

水上 雅晴, 琉球“科試”制度浅論(『教育と考試』, 査読あり, 2016 年第 5 期, 福建省高等教育自学考试委員会, 2016 年 11 月, 37-44

紺野 達也, 琉球漢詩人蔡大鼎の詩に詠われた日本 『欽思堂詩文集』巻二所収の 15 首について, 台湾大学日本語文学系・和漢比較文学学会『2016 和漢比較文学研究』, 査読あり, 2016 年 10 月, 21-29

水上 雅晴, 再論琉球的“科”: 以現存琉球漢籍為線索, 『廈門大学学报(哲学社会科学版)』, 査読あり, 2016 年第 4 期(総第 236 期), 2016 年 09 月, 27-34

高津 孝, 琉球における漢籍受容と漢文の学習, 福島金治編『生活と文化の歴史学 9 学芸と文芸』, 査読無し, 2016 年 08 月, 504 ~ 525

高津 孝, 琉球の編年体史書, アジア遊学 海を渡る史書 東アジアの「通鑑」, 査読無し, 198 巻, 2016 年 06 月, 149 ~ 160

高津 孝, 琉球的出版文化と琉球漢詩集, 人文中國學報, 査読有り, 22 巻, 2016 年 05 月, 279 ~ 303

高津 孝, 蔡大鼎の漢詩文と琉球の遊里, 鹿大史学, 査読無し, 63 号, 2016 年 02 月, 1 ~ 28

紺野 達也, 琉球漢文学者蔡大鼎の晩年に関するいくつかの新知見 『北上雑記』・『北京話』を中心に, 中国詩文研究会『中国詩文論叢』, 査読あり, 第三十四集, 2015 年 12 月, 188-222

陳 捷, 韓国国立中央図書館所蔵琉球『選日通書』について, 大高洋司・陳捷編『アジア遊学』特集『日韓の書誌学と古典籍』, 勉誠出版, 査読無し, 2015 年 05 月, 93-104

紺野 達也, 蔡大鼎の基礎的研究のための覚書 家族と生涯を中心に, うるま市教育委員会『蔡大鼎「伊計村遊草」等調査研究事業報告書』, 査読無し, 2015 年 03 月, 18-52

水上 雅晴, 琉球中央土族の漢籍学習について 楚南家本を中心とする初歩的考察, 『沖縄文化研究』, 査読あり, 第 41 号, 法政大学沖縄文化研究所, 2015 年 03 月, 53-98

紺野 達也, 陳觀西・陳福慶と琉球漢詩人, 中国詩文研究会『植木久行教授退休記念

中国詩文論叢』, 査読無し, 第三十三集, 2014 年 12 月, 335-353

都築 晶子, 「二つの天妃伝 程順則『指南広義』をめぐって』『龍谷大学論集』, 査読無し, 484 号, 2014 年 10 月, pp. 46-84.
水上 雅晴, 琉球中央土族の漢籍校勘 以楚南家文書為中心, 北京大学国際漢学研修基地編『国際漢学研究通訊』, 査読あり, 第 9 期, 北京大学出版社, 2014 年 09 月, 200-213

〔学会発表〕(計 19 件)

高津 孝, 琉球漢籍概説, 南京大学人文講談, 2016 年 12 月 26 日, 南京市(中国)

高津 孝, 交錯の視線: 琉球的博物學, 「文化交流與觀照想像: 中國文哲研究的多元視角」學術研討會, 2016 年 12 月 08-09 日, 台北市(台湾)

紺野 達也, 從比較文學的角度來看的蔡大鼎之詩歌 琉球漢詩人研究札記(2), 早稻田大学中国古籍文化研究所, 復旦大学古籍整理研究所, 北京大学中国古文献研究中心「东亚視域中的中国古典文献与文学」, 2016 年 9 月 10 日, 上海市(中国)

紺野 達也, 琉球漢詩人蔡大鼎の詩に詠われた日本 『欽思堂詩文集』巻二所収の 15 首について, 和漢比較文学学会第 9 回特別例会, 国立台湾大学日本語文学系共同主催, 2016 年 8 月 31 日, 台北市(台湾)

陳 捷, 韓国国立中央図書館所蔵琉球『選日通書』について, 第 6 回日韓古典籍研究交流会, 2016 年 7 月 29 日, ソウル市(韓国)

水上 雅晴, 琉球“科試”举行的情况与学子的備考, 第十三回科挙と科举制国際學術シンポジウム, 2016 年 5 月 29 日, 会場: 北京市東城区第一図書館, 北京市(中国)

都築 晶子, 「呈文」と文献史料の間 近世琉球史へのもう一つの視点, 第 61 回国際東方学会會議(東京會議), 2016 年 5 月 20 日, 日本教育会館(東京都千代田区)

高津 孝, 薩摩・琉球博物學探論 從明清時期東亞海域文化交流の視角, 中央研究院「共相與殊相 十八世紀前東亞文化意象的匯聚、流傳與變異」計畫・明清研究推動委員會, 2016 年 05 月 06 日, 台北市(台湾)

高津 孝, 琉球土族の蔵書と學問, 古文献・新視野系列講座, 2015 年 12 月 28 日, 上海市(中国)

水上 雅晴, 再論琉球的“科” 以現存琉球漢籍為線索, 「科举制と科学学」第 12 回国際學術シンポジウム。2015 年 11 月 24-25 日、会場: 廈門大学国際學術交流センター、廈門市(中国)

紺野 達也, 蔡大鼎家世與家族 - 琉球漢詩文研究札記, 早稻田大学中国古籍文化研究所、復旦大学古籍整理研究所、北京大学中国古文献研究中心「中国古籍: 文明的载体」(国際漢籍シンポジウム, 2015 年 7

月 15 日,北京市(中国)
紺野 達也,陳觀西・陳福慶と琉球漢詩人,
第二回琉球漢詩文研究会、2015 年 3 月 17
日、沖縄県立博物館・美術館(沖縄県那
覇市)

紺野 達也,陳觀西陳福慶父子與琉球漢詩
人,早稻田大学中国古籍文化研究所、复旦
大学古籍整理研究所,北京大学中国古文
献研究中心“中国古籍研讨会”(北京大
学),2014 年 12 月 27 日,北京市(中国)
高津 孝,琉球の出版文化與琉球漢詩集,
中國詩學研究前沿國際論壇: Leading
Scholarship on Chinese Poetics: An
International Symposium(香港浸會大學
Hong Kong Baptist University), 2014
年 12 月 17 日,香港(中国)

都築 晶子,『抱護』とは何か 風水と植
樹,沖縄国際大学南島文化研究所・第
36 回南島文化市民講座,2014 年 11 月 29
日,沖縄国際大学南島文化研究所(沖縄
県宜野湾市)

水上 雅晴,琉球王国時代の經学: 以現存
琉球漢籍為線索,「第二届中国經典文献的
詮釋藝術國際學術研討会」,2014 年 10 月
16-17 日、主催: 香港教育学院二十週年
校慶、香港政府研究資助局(RGC)
GRF-2013-16「簡帛文献与思想史第二期研
究計畫」,香港(中国)

都築 晶子,久米村風水見の位相,沖縄県
立博物館・美術館主催: シンポジウム・
久米村崇聖会創立 100 周年記念「久米村
(クニダ) 琉球と中国の架け橋
」,2014 年 9 月 27 日,沖縄県立博物館・
美術館(沖縄県那覇市)

紺野 達也,蔡大鼎の詩と生涯 今後の課
題についての整理をかねて,第一回琉
球漢詩文研究会、2014 年 7 月 25 日、沖
縄県立博物館・美術館(沖縄県那覇市)

高津 孝,從琉球漢詩文看北京的琉球人,
「燕行使進紫禁城」學術研討会(故宮博
物院), 2014 年 06 月 28-29 日,北京市
(中国)

〔図書〕(計 4 件)

大高洋司・陳捷,勉誠出版,日韓の書誌学
と古典籍,2015 年 5 月, 200

紺野 達也,うるま市教育委員会,蔡大鼎
漢詩精選集 漏刻楼集・欽思堂詩文
集,2015 年 3 月,176

紺野 達也,うるま市教育委員会,蔡大鼎
の漢詩 うるま・琉球の風景, 2015 年 3
月.42

高津 孝,うるま市教育委員会,「伊計村
遊草」訳注解説, 2014 年 03 月,166

6. 研究組織

(1) 研究代表者

高津 孝(TAKATSU, Takashi)

鹿児島大学・法文教育学域法文学系・教授

研究者番号: 70206770

(2) 研究分担者

陳捷(CHEN, Jie)

国文学研究資料館・研究部・教授

研究者番号: 40318580

都築 晶子(TSUDUKI, Akiko)

龍谷大学・仏教文化研究所・研究員

研究者番号: 00115601

水上 雅晴(MIZUKAMI, Masaharu)

中央大学・文学部・教授

研究者番号: 60261260

紺野 達也(KONNO, Tatsuya)

神戸市外国語大学・外国語学部・准教授

研究者番号: 00506157